

2026年1月30日



# 「“はばたく次世代”研究者育成 3 職協働プログラム」 成果報告会を開催

—若手研究者に URA と若手事務職員が伴走支援する阪大独自の支援モデル—  
【2/3(火)13 時～@吹田キャンパス コンベンションセンター】

## ❖ 概要

国立大学法人大阪大学は、第一三共株式会社による「はばたく次世代」応援寄付プログラムのもと、「大阪大学“はばたく次世代”研究者育成 3 職協働プログラム」を実施してまいりました。2 年間の支援期間が終了するにあたっての成果報告会として、2月3日(火)13 時から吹田キャンパス コンベンションセンターにて、「第 3 回はばたく次世代研究交流会 ～越境する探究心、未来を織りなす若手研究者たちの対話～」を開催し、若手研究者が異分野融合研究 20 課題について報告します。

本プログラムは、ポスドクを中心とした最若手研究者の「専門研究への専念ゆえの孤独や孤立」といった課題を乗り越え、異分野融合研究を活性化させることを目的としています。若手研究者に対して、URA と若手事務職員が「伴走支援」として、研究の初期段階から連携し、研究環境の整備や研究推進を支援しています。その大きな成果に基づき、来年度以降も学内資金を活用して継続実施する予定です。

今回の交流会は、未来の科学技術を担う若き研究者の挑戦、そしてそれを支える本学独自の支援モデルとその活動について体感いただける貴重な機会となります。本学関係者を主な対象としておりますが、メディアの皆さまにもこの模様を公開いたします(ポスターセッションにもご参加いただけます)。

つきましては、本イベント当日のご取材・ご参加をお願い申し上げます。(途中入退場可能です。取材申込みについては 3 ページをご確認ください)



## ❖ 「第 3 回はばたく次世代研究交流会 ～越境する探究心、未来を織りなす若手研究者たちの対話～」概要 ※各研究課題の詳細は3ページに掲載

日 時： 2026年2月3日(火)13時00分～16時30分  
(※途中入退場可能です)

会 場： 大阪大学吹田キャンパス コンベンションセンター 2階 会議室2,3

内 容：【第一部】開会挨拶・事業説明(尾上孝雄 研究担当理事)  
フラッシュトーク(採択研究課題 20 件×3 分発表)  
【第二部】ポスターセッション・交流会(コアタイムは14:30～16:00)

対 象： 本学所属の全教員・学生・職員・URA  
本学の異分野融合研究、研究交流・支援に興味関心のある方

**第3回 はばたく次世代研究交流会**  
～越境する探究心、未来を織りなす若手研究者たちの対話～

**日 程**  
2026年2月3日(火)  
13:00～16:30  
(受付 12:20～)

**ア ク セ ス**  
◆会場：吹田キャンパス コンベンションセンター 2階 会議室2,3  
◆学内バス：12:00(昼中発) 11:50(東面発)

**対 象**  
◆本学所属の全教員・学生・職員・URA  
◆本学の異分野融合研究、研究交流・支援に興味関心のある方

**参加登録**  
2月2日(月) 15時 まで

**プログラム** ※詳細は裏面へ  
第1部 13:00～14:10 (会場：会議室2) 休憩 20分  
開会挨拶・説明 尾上 孝雄 (大阪大学理事・副学長)  
フラッシュトーク (各3分/20プロジェクト)  
\*はばたく次世代「研究者育成3職協働プログラム」異分野融合研究プロジェクトに採択された研究者が、研究概要を3分間で簡潔に説明します！  
第2部 14:30～16:30 (会場：会議室3)  
ポスターセッション+ 自由交流  
フラッシュトークのプロジェクトについて研究者がポスターで発表します！  
※研究者がポスターの前で説明する時間はコアタイムは、3時に分かれています。  
各プロジェクトに関わる研究者・タイトルについては裏面にどうぞ確認ください。

※本学は、第一三共株式会社による「はばたく次世代」研究者育成プログラムに賛同・協賛しております。

**❖ 「大阪大学“はばたく次世代”研究者育成 3 職協働プログラム」とは**

本プログラムは、これまで 2 年間にわたり、第一三共株式会社による「はばたく次世代」応援寄付プログラムのご支援のもと実施してまいりました。ポスドクを中心とした最若手研究者の「専門研究への専念ゆえの孤独や孤立」といった課題を乗り越え、異分野融合研究を活性化させることを目的としています。

本プロジェクトの根幹は、研究費支援に加え、研究推進を支援する専門人材である URA (University Research Administrator) と、実務に精通した事務職員、研究者と職種の枠を超えて一体となる「温かみのある伴走支援」を実践した点にあります。この全国的にも先駆的な取り組みにより、研究の初期段階から研究者と連携し、研究活動の企画・マネジメント、研究環境の整備、異分野交流の促進など多岐にわたる支援を行い、若手研究者の研究専念環境の向上と新たな研究展開に寄与いたしました。



第一三共株式会社様からの直接的な支援期間は終了いたしました。その大きな成果と確かな実績に基づき、令和 8 年度からは大学の学内資金を活用し、この支援体制を改善・強化し、継続して実施してまいります。

**【本プログラムの特徴】**

- ❖ 研究者-URA-事務職員による若手を主体とした「3職協働」プロジェクトとして推進。3 職が一体となった取り組みとして、研究者への研究費支援に加えて事務職員・URA がともに積極的に関わり、研究プロジェクトを伴走支援する。
- ❖ 本プログラムでは、異分野融合研究 grant を活用し、プロジェクト創成の経験を通じて次世代を担う研究者を育成することを目標とする。また伴走支援に加えて交流会を企画し対話を醸成することで、新たな相互のネットワークも構築する。
- ❖ 学内公募により選ばれた若手事務職員は“学内副業型”(10%エフォート)でプログラムに参画し、主業務と並行して研究開発マネジメント業務に主体的に従事。研究プロジェクトの伴走支援の実践と併せて、技能向上のためのセミナー・研修の機会を得つつ、マネジメントスキルの獲得を目指す。

(右写真=第 1 回・第 2 回はばたく次世代研究交流会の様子)


**❖ 参考 URL**

大阪大学 “はばたく次世代”研究者育成 3 職協働プログラム HP

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/research/research/habataku>

本プログラムについてのポスター発表資料(2025 年 10 月 RA 協議会第 11 回年次大会)

[https://www.omp.osaka-u.ac.jp/news/\\_assets/7\\_poster\\_habtaku.jpg](https://www.omp.osaka-u.ac.jp/news/_assets/7_poster_habtaku.jpg)

第一三共株式会社 「はばたく次世代」応援寄付プログラム

<https://www.daiichisankyo.co.jp/about us/habataku/>

❖ 取材申込について

※本イベントを取材いただける場合は、2月2日(月)正午までに、上記の本件問い合わせ先まで、ご氏名・ご所属・ご連絡先・人数・参加予定時間のご連絡をお願いいたします。(途中入退場可能です)

個別の研究課題に関する取材・撮影をご希望の場合、会場にて当該研究者の許可をお取りいただきますようお願いいたします。

❖ 研究課題詳細

(右表のとおり)

詳細



▲ 交流会HP

2024年度及び2025年度の「はばたく次世代」研究者育成3職協働プログラム 異分野融合研究プロジェクト」に採択された研究者が、以下研究タイトル名にてポスター発表します。

プロジェクト一覧



▲ プロジェクトの紹介

ポスターNo. ※トーク順	研究代表者(所属・職位) 共同研究者※所属・職位は省略	研究タイトル
1	松井 大 (人科・助教) 助川 桃枝	情動表出のデータ駆動型解析－微細顔面運動を制御する神経ダイナミクスの解明
2	萩原 広道 (人科・講師) 河合 祐司、堀井 隆斗、石原 尚	子どもの状態の変化は「教え方」をどう変えるか？－子ども型アンドロイドを用いて
3	清川 拓哉 (基礎工・助教) 設楽 哲弥	進化生物学の見地を導入した自己再構成可能な作業知能ロボットの創成
4	佐竹 祐人 (医学・助教※2024年度時点) 石丸 大貴、梅村 和弘、坪井 彬	高齢者の孤独を解消する対話型ロボットの開発
5	孟 思昆 (医学・特任助教) 瀬戸 ひろえ、山本 倫生、原 知明、石井 秀始	バイオマーカー判定に対する患者の自主的な行動様式のモデル化と多様な価値を最適化する統計科学技術の創出
6	加藤 遼 (基礎工・助教) 宮澤 佳雨、熊倉 直祐	細胞壁の組成を可視化する超解像増強ラマン顕微鏡の開発
7	植山 由希子 (薬学・助教) 久保 俊貴	ラマン顕微鏡技術を用いたヒトiPS細胞由来肝オルガノイドの品質評価系の構築
8	藤井 健太郎 (医学・助教※2024年度時点) 藪島 維文	生体イメージングで解く、新規pHプローブの作成を用いた組織内DAMPsの食食除去機構の解明
9	竹之下 憂祐 (生命・助教) 高崎 寛子	細胞生物学と構造生物学の融合による染色体分配メカニズムの解明
10	廣瀬 勝俊 (歯学・助教) 元岡 大祐	骨髄間質細胞の多様性：健康への鍵を探る研究
11	勝木 翔平 (医学・特任助教(常勤)) 水田 好雄	生体数値モデルを用いた抗腫瘍効果を最大化する光子線・電子線による放射線治療レジメンの解明
12	柳野 佑輔 (医学・博士課程) 篠崎 健二	心臓血管外科領域の抜去困難な人工物挿入中の患者における、人工物関連感染症の深紫外線(UV-C)を用いた非侵襲的な治療機器の開発
13	佐古 真 (薬学・助教) 上村 健太郎	1-メチルチオメチルインドールを新規創薬スキャフォールドとする医薬化学的基礎研究と応用
14	山下 泰信 (産研・助教) 細貝 知直	神経膠芽腫の革新的治療を志向した300MeV級電子ビームによるプロドラッグの活性化研究
15	近藤 慎司 (基礎工・助教) 横山 幸司	光発電と蓄電を両立する「光蓄電池」の構築へ－スズ系ペロブスカイト材料の蓄電メカニズム解明－
16	桶谷 龍成 (基礎工・助教) 加藤 遼	キラル結晶性材料の創成に資する新奇キラル対称性の破れ現象の理解
17	猪原 達生 (レーザー研・特任研究員)	レーザー科学研究史の記録と記憶の「文理融合」による体系化－光ファイバーと半導体リソグラフィを事例として－
18	須賀 健介 (理学・助教) 高橋 隼人、寺山 慧、隅田 真人	探索AI×量子化学×有機化学の共創による次世代分子設計の確立
19	金田 恵理 (医学・博士課程※2024年度時点) 八木 雅和	更年期女性のホットフラッシュ症状を治療するデバイスのプロトタイプ作製
20	田丸 裕基 (レーザー研・助教) 近藤 吉史、SEO Yeongjun	低温焼結による希土類添加フッ化物セラミックスの研究

共 催：大阪大学経営企画オフィス・研究推進部研究企画課研究企画係  
お問い合わせ：経営企画オフィスURA部門 (ou-ura.omp@ml.office.osaka-u.ac.jp)